

はじける笑顔、地域の子どもたちと

渭東コミュニティ協議会

コミュニティ だより

徳島市
徳島市コミュニティ協議会
徳島連絡協議会

〒770-8571
徳島市幸町2丁目5番地
TEL(088)621-5510
FAX(088)621-5511



福島小学校区通学路スタンプラリー

そんな中、渭東地区では、子育てや教育を応援しようと子どもの支援事業に取り組んでいます。二十七年からの大きな事業として、NPO法人フェローシップ77主催の「福島小学校区通学路スタンプラリー」

これは、新学期が始まる前に地域のひととマップを持って通学路を一緒に歩き、危ない川や池はないか、道幅が狭いのに交通量が多い所はどこかなど、危険な場所を探します。また、知らない人に声をかけられたり、追いかけられたり、危険を感じたときに駆け込む「こども一〇番の家」を確認してマップにスタンプを押してもらいます。

今回は、児童館、老人クラブ、女性クラブ、自主防災連合会の方々にお手伝いいただきました。これをきっかけに、子どもたちと地域の人たちの

子どもは「地域の宝・社会の宝」です。子育ては、未来の日本を支える人材を育てることです。

かつて、私たちの周りには三世代同居の家庭が多く、親以外にも多くの方が子どもたちに関わっていました。子どもたちも、年の違う子と遊び、

自分より小さな子どもとの世話をしています。ところが、現在は、生活様式の変化にともない地域のつながりも少なくなり、子育てを助けてくれる人や、相談できる人が身近にいないという状況にあります。



木工教室



児童館まつり

交流が深まり、大きな輪となることを願っています。

この他にも、木工教室や昔の遊び体験、福祉夏まつりに児童館まつりの協力など、さまざまな地域の活動に協力しています。

これからも、地域全体で子どもたちに寄り添い、「地域の宝・社会の宝」として応援したいと考えています。



「幸せ町づくり」をめざして

南井上コミュニティ協議会
会長 松島 孝昌

近い将来、東南海地震による災害が予想され、各自治体や地域の防災意識が高まってきております。そこで、災害時における「自助・共助・公助」が重要視されています。そのうちで、地域コミュニティの役割が共助であります。共助とは、何も災害時に限ったことではなく、日常の社会生活にもいえることです。地域住民が意思の疎通と良好な仲間づくりをとおして絆を深めることが大切です。

南井上コミュニティ協議会

の最も大きな行事は、毎年十一月初旬の土、日、月曜日の三日間開催される「南井上コミセン祭り」です。

一日目は、大会議室にブラスを作ってバザーを行います。これは、女性会が中心となり、住民から不要品を集め、地域の農産物等も含めて販売します。安価で購入できるとあって、開始前から並ぶほど盛況です。

二日目の日曜日は、コミセン前広場で女性会、小学校の保護者等による模擬店が開かれます。特にうどん、たこやきは好評です。また、児童館も遊びコーナーを設け、多くの子どもたちで賑わいます。

一方、隣接する小学校のグラウンドでは、地域の十二地区からチームを作り、グラウンドゴルフ大会を行います。多数の参加者でコミユニケーションが良好にできているようです。グラウンドゴルフ終了後、コミセン玄関前では、南井上小学校金管バンドがすばらしい演奏を披露してくれます。午後には、大会議室で演奏大会が行われ、終了後、お楽しみ抽選会もあり、盛り上がりがあります。

三日間をとおして地域住民から提出された絵画、手芸、生花等の作品展示をしており、これには、保育所、幼稚園、小学校の園児、児童も出品してくれています。

南井上地区は、地域力向上と絆を深めるため、コミュニティ協議会、公民館、社会福祉協議会、町内会連合会をはじめ、各種諸団体と緊密な連携をとりあい、助け合いの精神をもった、幸せで住みよい町づくりをめざした活動をしていきたいと思っております。



大会議室でのバザー



好評のたこやき



南井上小学校金管バンド



地域住民の作品展示

自主防災活動と コミュニティ協議会活動

津田新浜地区自主防災会連絡協議会

山口 勝秀

自主防災組織は、過去の大规模災害を教訓として、住民による防災組織として生まれました。比較的新しい組織のようですが、実は日本文化の中で、「向こう三軒両隣」と

いう言葉があり、これが原点ともいわれています。時の流れとともに社会環境の変化もあり、学校、職場、家庭、地域社会などの多くの場での人の関係の希薄化など、

人と人の結びつきが弱くなったといわれています。



自主防災とコミュニティ協働の避難所運営図上訓練

ところで、阪神淡路大震災では、住民の助け合いによる人命救助などで改めて自主防災の力がクローズアップされ、これを契機に、国の災害対策基本法、自治体の地域防災計画などが大幅に改正、地域防災の要として、

公的にも自主防災組織活動が大きく期待されることになりました。

最大震度七を記録した阪神淡路大震災、新潟県中越地震、東日本大震災、最近の熊本地震などで住民の防災意識は非常に高まっています。

しかし、自主防災組織の結成率は市内二十三区平均で四十%程度と低調です。徳島市では結成率に係わらず、各地域の自主防災組織が地域内全体を活動範囲とする考え方のもと、二十三区に自主防災連合組織の結成を進め、育成・指導の強化に乗り出しました。ところが、最近の自主防災活動は、災害時要援護者の支援、避難行動要支援者の支援、避難所運営支援など、その活動内容が複雑・多様化しています。

従来からの自主防災組織活動のみでは解決できない事象も多く、地域の各種団体との連携が今以上に求められています。

例えば、消防団、学校、民生・児童委員、社会福祉協議会、福祉団体、ボランティア、医療機関、事業所などの連携が不可欠となります。

そこでこれから期待されるのが、地域のコミュニティ協議会です。コミュニティ協議会は所属する各団体の自主的活動を尊重し、その活動の支援協力や調整を行っていると思います。

複雑化する地域防災活動に、地域コミュニティ協議会が関係する各団体との調整力を生かし、自分たちの地域は自分たちで共に支え合う「共助」で、住民が一体となって安全・

安心なまちづくりを目指すため、コミュニティ協議会活動の今後更なるご尽力を期待するものです。

(津田コミュニティ協議会)



「わくわくコミュニティフェスタ

inとくしま」開催

日時：平成28年10月30日(日)

場所：アステイとくしま

徳島市コミュニティ連絡協議会・一般社団法人徳島青年会議所・一般財団法人徳島県観光協会の共催で「わくわくコミュニティフェスタ in とくしま」を開催します。

徳島市内各地区のコミュニティ協議会が一同に会し、それぞれの地域の自慢の芸能披露や特産物の販売を行います。開催日当日の駐車料金は無料です。

皆さまお誘い合わせの上、ぜひともご参加・ご見学にお越しください。

加茂地区 社会福祉協議会の 活動について

加茂社会福祉協議会
会長 阿部 靖司



食事サービスとふれあい交流会

加茂社会福祉協議会の活動は、単身高齢者福祉を軸に、加茂地区住民の福祉を目的にさまざまな事業を展開しております。

まず、単身高齢者の方へ年四回、加茂コミュニティセンターで食事サービスとふれあい交流会を開催、また、年三回の単身高齢者の方の自宅へ宅配サービス、また、友愛訪問のお花サービス、年間八回



福祉餅つき

の福祉サービスを実施しております。

一方、加茂地区住民を対象とした、三十二回を数えます「加茂の夏祭り」の開催。例年二千名近くの皆さんに千松小学校へお越しいただき、阿波踊り、花火などを楽しんでいただいております。十二月には、三百名を超えるボランティア（十年前頃からは、五十名を超す城北高校生・先生方も参加）の協力のもと、福祉餅つき・バザーの開催等、年間を通しさまざまな活動をしていきます。今後とも、より一層に社会福祉協議会活動を実践し、地区住民が安全で安心した町づくりのために、貢献してまいりたいと考えております。

(加茂コミュニティ協議会)



加茂の夏祭り

6年間を顧みて

内町まちづくり協議会副会長
元内町地区社会福祉協議会会長
大崎 和久

内町地区社会福祉協議会の代表をさせていただきまして、早くも六年の歳月が流れました。当初は不安ばかりが多く、戸惑いもありましたが、皆さま方のご協力を得まして、何とか果たすことができました。力不足のところもたくさんありました。

当方での取り組みを少し紹介します。



独居老人食事会「なかよし会」



福祉まつり

一・友愛訪問
七十才以上の独居の方々に、粗品の暑中見舞いを配ります。

二・お食事会（なかよし会）
七十才以上の独居の方々に、お食事を提供します。レディース会の方々が、カロリーと栄養分を考えて献立にしてください。好評です。



H27 敬老会で挨拶する
大崎内町地区社会福祉協議会前会長

（四十名くらいの参加で年五回開催。）

三・敬老会
八十才以上の方々が対象です。毎年百五十名くらいの参加があります。幼稚園児のお遊戯会、楽器の演奏などもあります。

四・福祉まつり
バザーを中心に餅つき、うどん、ぜんざいなど。子どもたち用に、手芸や手細工など。中学生諸君がボランティアに来てくれます。嬉しいですネ。

五・子どもたち
夏休みラジオ体操実施。プレゼント付。市民遺産めぐり実施。

これからも微力ですが、応援してまいります。

「高須の隠元狸」の紹介

沖洲コミュニティ協議会

現在の徳島市北沖洲四丁目あたりは、昔は高須（高洲）と呼ばれていました。その頃にこのあたりに住んでいたと伝えられている「隠元狸」について紹介します。

マリンプシア沖洲への真ん中のアクセス道の手前に、隠元

狸の肖像画が写真のように描かれています。この壁面の裏に、隠元狸保存会が由来の看板を建てており、秋には狸まつりのオリエンテーリングのチェックポイントにもなる祠があります。

由来の看板には、



隠元狸の肖像画

「むかし、この浜は、松林と葦原が二キロメートルも続いた荒波の打ち寄せる海岸の淋しい松並木であった。此処

にたくさん狸が住んでいた。中でも変幻自在の茶目っ気が多い狸が居った。高入道に化けるのが得意で、

吉野川をひとまたぎするほど大きくなる事もできたと言う。又、疾風のように早く走る事もあつたらしい。村人達はこの狸を隠元狸と呼んでいた。金長狸と六右衛門狸の合戦のときには、双方の陣営から「加勢を頼む」と度々の要請にもなかなか動か



沖洲に住んでいたと言われている狸たち
—わが町沖洲から—

なかつた大物であった。後日金長方に味方をし、大層な働きをして、阿波の狸の中でも指折りの豪傑となった。また、隠元は自分を持つのが嫌いで、そのくせ頼んで来ると何でも聞いてやり、面倒をよく見てやった。隠元狸さんは魚が大変好物で、漁師達はとれた魚を与えたり、相撲をとつたりして、機嫌をとつておくと何時も大漁であった。願ひ事を良く聞いてくれる、それはそれは義侠心の強い、愛すべきお狸さんであったと言う。』

（原文どおり掲載）
—隠元狸の由来から—

興味のある方は、一度訪ねてみてください。

編集後記

第十四代藩主蜂須賀茂昭公は、明治維新に大きな足跡を遺しています。初代東京府知事、貴族院議長、文部大臣となり、日本の近代化に尽くします。原田家の掛軸に「先祖の遺産に田畑以上に学問の重要さ」を書いたものがあります。自分もイギリスのオックスフォード大学へ留学し、日本の近代化に尽くしました。

渭東コミセンは子育て活動「地域の宝、社会の宝」づくりががんばっておられます。加茂地区でも幼保・小中高校の活動や内町地区の夏休みラジオ体操支援活動など子育て活動が重視されています。

それぞれの地域がそれぞれの地域の特性を活かし、創意工夫努力のもと地域の活性化を目指し活動されておられます。勝占東部の音楽活動、南井上の日常社会活動の「共助」による仲間づくりはすばらしいものです。加茂地区や内町地区の福祉事業もすぐれています。特に津田新浜地区の自主防災とコミセン活動の提言は重要です。

沖洲の「高須の隠元狸」の紹介は市民にとって宝です。
（佐藤義忠 記）